

一新規御抱入之ものへハ、極月被仰付候ても、御切米ハ年中渡、但部屋住之者、新規御切米被下候ても同斷、

一女中衆之分ハ、新規明跡無構、年中御切米渡、尤其時々御證文、從前々々極る

一御切米御扶持方、手形譯無之、書付時節過ぎ、月を越渡候へバ、其時ニ添狀ニ而渡す、

但渡し日過候計ニて、月を不越候ハ、頭支配頭手形ニて渡、寛文十亥年、添狀ニて極る

一取來御切米、半知に成候もの、春夏受取候以後ニても、春より半知之積り、先達而受取候春夏之分ハ、指引渡、享保四年、御證文ニて極る

一御切米御足高之交り有之者、三季之割合ニて春夏御足高之分不相渡内、小普請入候へバ、小普請入已後、冬御切米之節、春夏御足高之割合を以渡、享保十年、年十月より極る

一逐電出奔行衛不知分御切米、御扶持方上り候節ハ、御料ニ准じ取計候事、元文三年七月、添狀之趣を以て極る

一屋敷拜領仕候者、新規家作いたし候節ハ、御切米御足高取越渡る、略節

〔江戸會誌〕幕府廩米支給手續略○中

扱諸向御切米御扶持方渡り方ハ、隱居家督、或は跡日家督、御番人、御役出、御役替等、身分之代る毎に、其者又頭支配より御老中方へ御證文願出す、此度何々被仰付、御役料、御役扶持、御足高、何被下候間、書替所へも御證文被下候様願書進達する、表御右筆に御證文掛りあり、其向にて、是迄の請取方を糺、書替奉行へ突合之上、御切米は當何季分より、御扶持方ハ當何月分より、或ハ直判手形、或ハ頭支配裏判手形を以、可相渡之旨、御老中方連印之證文、程村紙ニタ折に認め、書替奉行兩名宛にて、頭支配より渡、頭支配是を書替役所へ使者を以差出す、家督證文に限り、同日家督之分、連名にて四ヶ月目に御證文出る、其外御抱入身分之者ハ、其頭により斷狀を出す、是ハ草案書替奉行へ問合之上、本書程村紙ニタ折に認め、調印之上、御勘定所に出す、御勘定